

構造研究室今野久志研究員 第46回構造工学シンポジウム論文賞を受賞

当所構造部構造研究室、今野久志研究員は、平成11年度の構造工学シンポジウム論文賞を受賞しました。受賞した論文は、平成11年4月に名古屋で開催された第46回構造工学シンポジウムでの研究発表「実規模P Cスノーシェットの耐衝撃性向上に関する重錘落下衝撃実験」（共著者：岸 徳光、今野久志、三上 浩、川瀬良司、栗林祐介）と題するものです。これは平成10年11月に一般国道229号のスノーシェットが落石により被災し、フランジ部コンクリートが国道上に剥落する事故が発生したことから、同シェットの補強対策を検討するために実施された実験であり、上記シェットの上部工と同一断面寸法の実大P C桁供試体を製作し、落石衝撃力の緩和と分散を目的とした三層緩衝構造の設置、コンクリートの剥離を目的としたフランジ部裏面のウレタン樹脂吹き付け、上部工P C桁の曲げ補強を目的としたアラミド繊維シート補強について、各工法の補強効果と設計法の妥当性を検証するために重量2 t fの重錘を用いた衝撃載荷実験を行い、この結果を取りまとめたものです。本研究成果を基に現地のスノーシェットには補強対策が実施されました。

今回の表彰はこの研究成果が、構造工学における学術、技術の進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められたものです。

授賞式は、5月18日に東京で行われ、土木学会構造工学委員長より記念の盾が授与されました。



今野 久志研究員



衝撃載荷実験(江別市角山実験場)